



史蹟史料部

2024 年 1 月 4 日

#47

日本人墓地公園

ニュースレター

エミリーヒルの旧日本総領事館

シンガポールには、戦前から日本人の歴史に関わる場所で、建物が現存しているのは、ごく僅かです。今回は、その貴重な建物のうちの 1 つ、エミリーヒルに残る旧日本総領事館の建物をご紹介します。

日本領事館が開設されたのは 1879（明治 12）年、その後何度か移転し、1939（昭和 14）年にアップパー・ウィルキー・ロードのエミリーヒルに移りました。現在その建物は、美術館として一般公開されています。

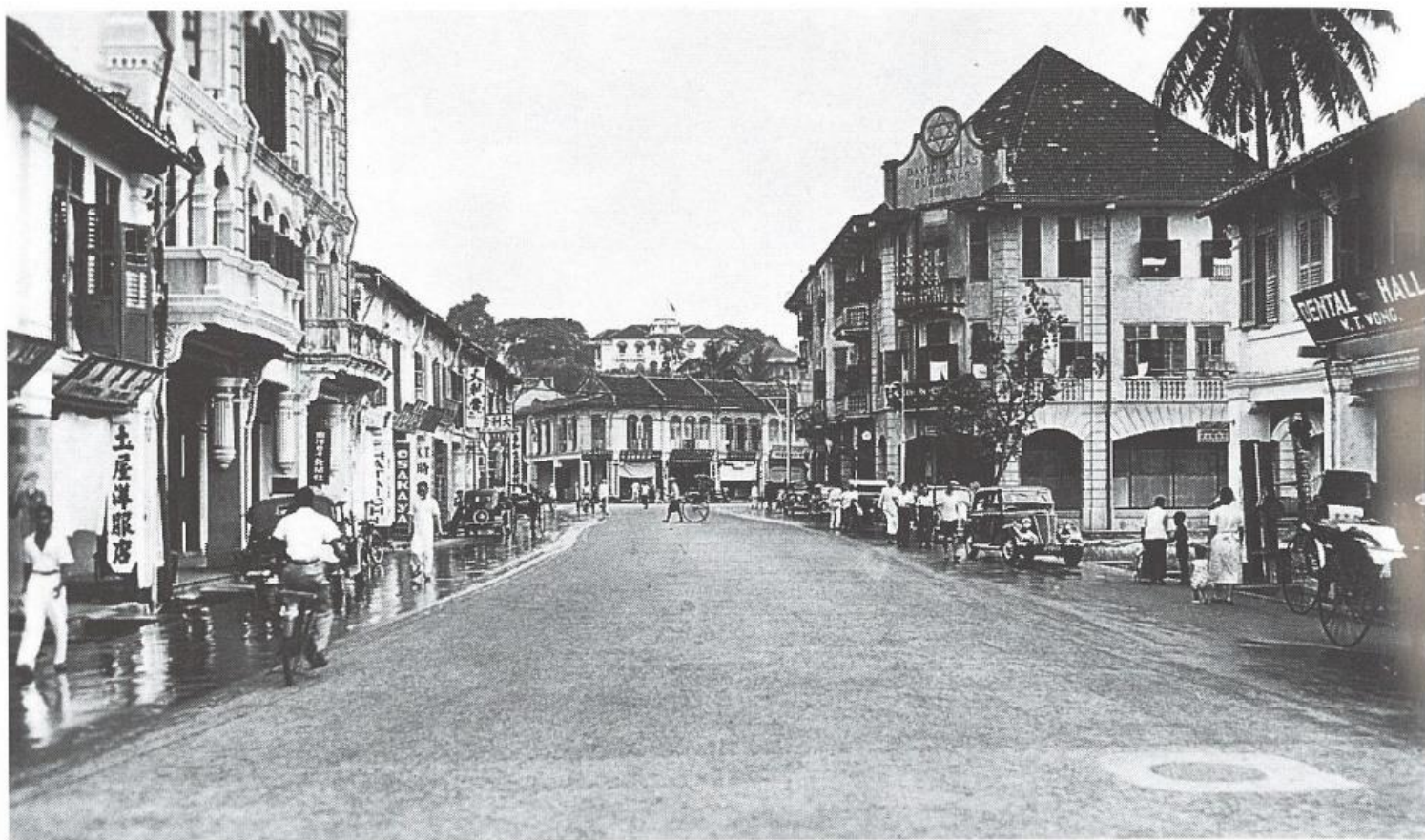
日 本 領 事 館	
公館の変遷	華僑の領袖である胡施澤に名誉領事を委任して日本領事館を開設 胡施澤名誉領事死去に伴い閉鎖 中川恒次郎領事代理が日本より着任し領事館再開 総領事館に昇格 開戦のため引き揚げ、総領事館閉鎖 二宮総領事が着任し、戦後の総領事館再開
公館の所在地	ノース・ブリッジ・ロードに開設 ソフィア・ロードで再開 カベナ・ロードに移転 ラッフルズ・チャンバーに移転 コリア・キーのユニオン・ビルディング内に移転 アッパー・ウィルキー・ロードに移転
1879 (明治12) 年 4 月 8 日	
1880 (明治13) 年 3 月	
1889 (明治22) 年 1 月 22 日	
1919 (大正 8) 年 5 月 31 日	
1941 (昭和16) 年 12 月 23 日	
1952 (昭和27) 年 10 月 18 日	
1913 (大正 2) 年 8 月	
1917 (大正 6) 年 1 月 9 日	
1925 (大正14) 年 4 月 3 日	
1939 (昭和14) 年 4 月 27 日	

出典：外交史料館史料 南洋の五十年 南十字星10周年復刻版

エミリーヒルは、MRT リトルインディア駅、ローチョー駅、ドビー・ゴート駅のちょうど真ん中あたりに位置しています。バス停が近くにあるわけでもなく、用事がなくここを通りかかることはないような場所にあります。



左は現在の写真、右は 1939（昭和 14）年頃の写真です。建物はほぼそのままの状態であることがわかります。



旧日本総領事館として使われていた時代、Japan Street 日本人街と呼ばれたミドルロードからでも、エミリーヒルに掲げられた日の丸の国旗が見えたようです。日本人学校、日本人医師の病院、商店などが連なっていたミドルロードを歩いた当時の人々は、この丘の上の総領事館を日常的に見上げていたことでしょう。

1941 年の末の開戦に伴い、総領事館は閉鎖されました。戦後、この建物は現地の小学校、孤児院、老人ホームなどの変遷を経て、南洋芸術学院分校、そして現在は美術館となりました。

この建物が建設されたのは 1880 年後半～1890 年の初めで、当時はオズボーンハウスと呼ばれ、1935 年に歯科医の池田重吉氏が邸宅として購入しました。史蹟史料部発行の「戦前シンガポールの日本人社会 - 写真と記録 -」収録「大正時代 1912 - 1926 年日本人街」地図で、ヒルストリートに池田歯科があったことが確認できます。

今回史蹟史料部がこの美術館を訪れたのは、シンガポール ミュージアム 日本語ガイドを長く務める大澤芳恵さんのご紹介でした。

大澤さんは、この建物が総領事館になる前に、池田重吉氏とともにこの邸宅に家族で住んでいた吉田美代子さんにお会いしたことがあるそうです。

吉田美代子さんは 1931 年にシンガポールで生まれました。美代子さんの父・吉田政市氏は池田氏の弟子で、氏の姪と結婚し、家族でこの邸宅に住んでいました。その後、カールトンホテルがあったところに、吉田歯科を開業しました。



後列左から 6 番目が池田重吉氏、前列左から 3 番目が吉田美代子さん。

美代子さんは、エミリーヒルから近いミドルロードの日本小学校に通っていました。ニュースレター[#25](#)と[#28](#)でご紹介したとおり、日本人小学校の建物も現存しており、アートセンターとして使われています。



右から 3 番目が吉田美代子さん



左から2番目が美代子さん。邸宅内にて。

美代子さんの記憶によると、家の近くには教会があり、尼僧をよく見たそうです。おそらくその教会はチャイムスでしょう。

日本小学校で書初めをしたのが楽しかったそうです。

当時のミドルロード（日本人街）にはたくさんの日本商店があったことが、史蹟史料部発行の書籍「戦前シンガポールの日本人社会 - 写真と記録 - 改訂版」付録の地図を見てもわかります。

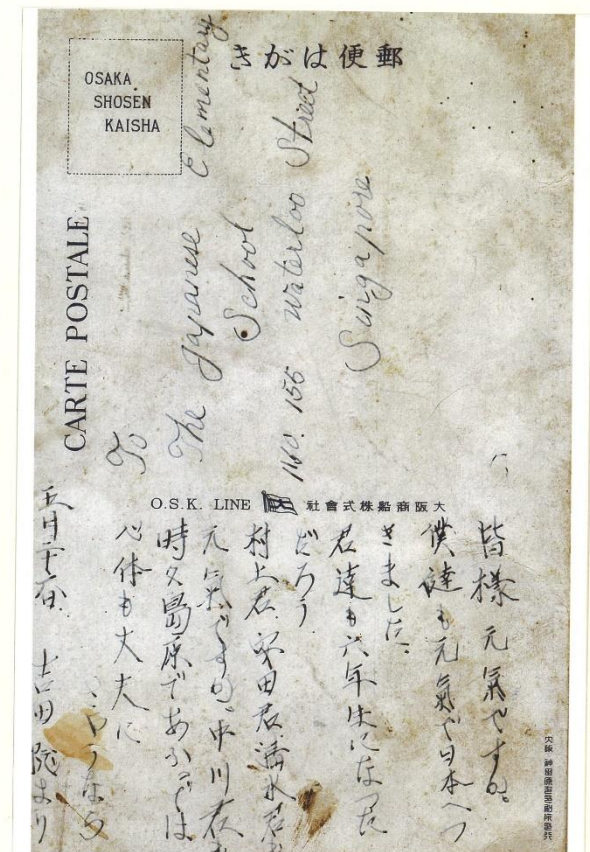
その後この邸宅は総領事館として使われることになり、美代子さん一家は引越しをされました。

まもなく戦争により、父・政市氏を除く家族は皆、日本へ帰国となりました。

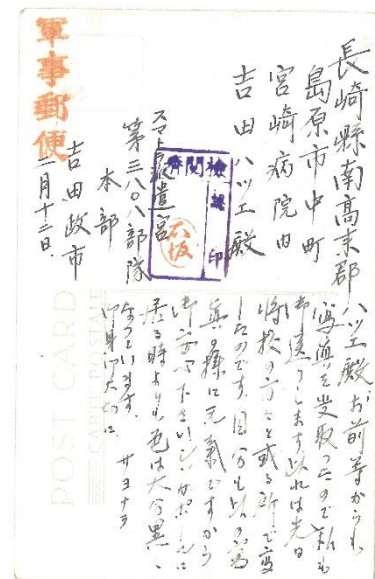
OSK のアフリカ丸で帰国した絵葉書が残されています。



S. S. "Africa Maru" 9,476 Tons Gross O. S. K. LINE 噸六十七百四千九數噸總 丸かりふあ



政市氏はその後、通訳として残り、日本軍で働いていたそうです。
戦後、政市氏も無事に日本へ帰国することができました。



父・政市氏が長崎に帰った家族に軍事郵便で送った手紙と写真



美代子さんが2015年9月に娘さんと一緒にシンガポールに来られた際、大澤さんは彼女に会われました。

「エミリーヒルに来ることができて本当に嬉しい。戦争がなければこの楽しい生活がずっと続いていたのに」

美代子さんは、そう話されたそうです。



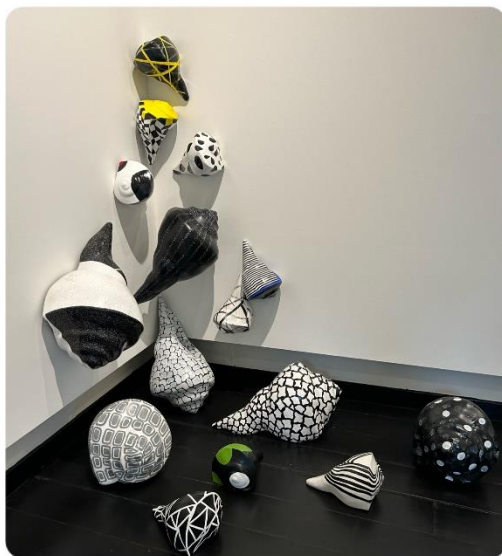
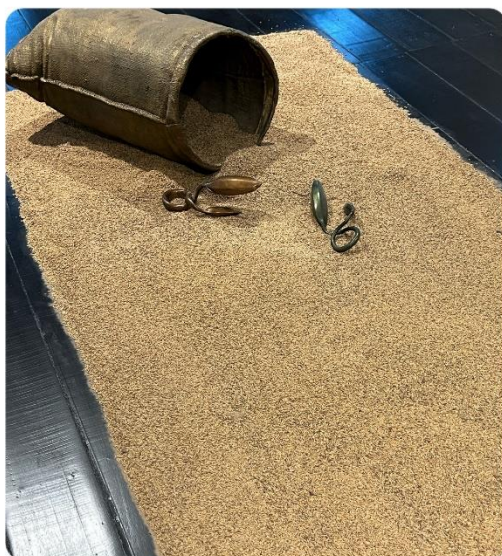
2015年に美代子さんと娘さん家族が邸宅を訪問された時の写真

美代子さんが生まれ育った邸宅であり、旧総領事館であったこの建物は、現在 Private MUSEUM Singapore として一般公開されています。

The Private Museum Singapore: [The Private Museum \(TPM\) Singapore](#)



史蹟史料部が訪れた時は、Kumari Nahappan さんのアート展示が開催されていました。





建物内部の壁は塗り直されていますが、部屋の床や、こちらの木造の階段は美代子さんが住んでいた当時のままだそうです。

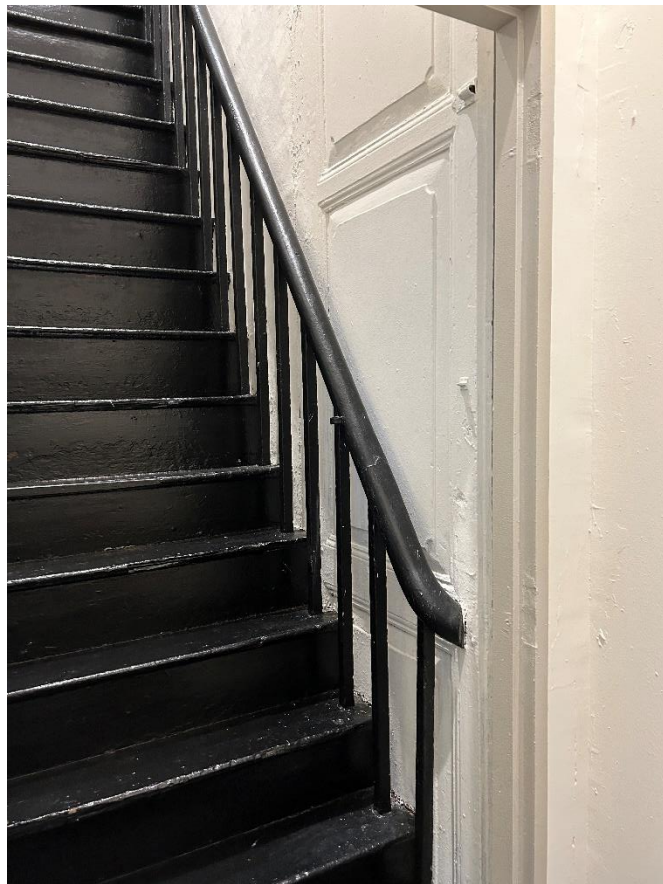
築 120 余り、旧総領事館として使われた立派な邸宅であったことが偲ばれる、優雅な造りです。



美代子さんご一家は、2 階のこちらの部屋を使用していたそうです。



2階のこちらの部屋には、窓際にドアがあり、開けると屋根裏に続く階段がありました。大人の足では、はみ出てしまうくらい幅の狭い階段で、手すりに掴まり足を横に踏みだして昇りました。



天井が低い細長い屋根裏部屋には小さな窓がいくつかあり、そこから街の風景を見渡すことができました。高層ビルが無い時代は、島内の遠い場所まで見渡せたのではないのでしょうか。





旧総領事館が閉鎖されたあと、この建物は乳児院として使われていた時代があり、院長は Dr リム・ブンケンの夫人で、彼女がここを管理していたという記録があります（「星洲星光（アイナの本）より」）。

Dr リム・ブンケンは、政治、経済、文化と多岐にわたる分野で重要な役割を果たし、現在の MRT ブーン・ケン駅（NEL 線）の名前の由来になっている人物です。

約 130 年の間、様々な用途で使用されてきた建物ですが、現在も建設当時とほぼ同じ外観を保っています。

The Private Museum Singapore は、展示会期間中は土曜日・日曜日も開いているそうです。

エミリーヒルまで散策がてら、シンガポールにおける日本の歴史を想いながら、この建物を見学してみませんか。

参考文献：

「戦前シンガポールの日本人社会 - 写真と記録 - 改訂版」

シンガポール日本人会 1998 年 6 月 27 日発行

「星洲星光」章星虹 著 2016 年 11 月 28 日発行

吉田美代子さん提供写真：日本人会所有



左より、博物館ガイドを務める大澤さん
史蹟史料部 両頭、The Private Museum の
Founding Director レイチェルさん。